平成 29 年度 あべの翔学高等学校 学校評価

Ⅰ めざす学校像

1 人徳を経とし実務を緯とする

人徳と実務を兼ね備え、将来、社会で貢献できる生徒を育成することを建学の精神とし、「立志、礼節、誠実、勤勉」を校訓とする。

2 学力だけでなく「こころ」の面での成長を大切にし、生活指導面での厳しくもきめ細やかな指導をとおして社会生活に適切に対応し、活躍できる教育活動を実践する。

Ⅱ 中期的目標

1 学習指導

十分に基礎学力が備わっているとは言えない生徒が散見される。基礎学力の定着を図る。

2 進路指導

生徒・保護者の希望、本人の実力を勘案して、適切な進路指導を行う。

3 生徒指導

基本的生活習慣の習得

4 生徒会・クラブ活動への積極的参加

生徒会(学校行事)、課外活動を通じ。勉学との両立を図りながら、秩序・リーダーシップ・協調性等のチームワークや人間関係の育成を図る。

5 保護者との一体教育

保護者とのコミュニケーションを一層密にし、適切な学習指導、進路指導、生徒指導等を行う。

6 安全管理

災害意識を高め、火災のみならず、地震・津波などの緊急時対策を図る。

また、救急救命の知識向上に努める。

Ⅲ 本年度の取組内容及び自己評価

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学習指導	(1)基礎学力の定着	a 主要 3 教科(英語、国語、数学)での中学基礎学力の学び直し授業実施 b 学期初の習熟度調査による習熟度別個別教育実施	a 学び直し授業回数 10 回/年 b 学期最初の実力テストから期末実力テストへの成績 20%向上を目標にあげる。	1 学期授業で学び直し学習を行い、保護者においても一定の評価を頂いた。年間 35 時間中 10 回の目標値は達成できた。 この結果、1 学期末考査から学年末考査の点数伸び率は、数学と英語演習においては 12%相当向上したが、国語及びコミュニケーション英語については向上は得られなかった。 個人別に弱い分野を見定めて、学習指導出来るよう体系的に実施してゆく。

2 進路指導	⑴進路指導対策の早期実施	a 進路希望調査の早期開始、早期対策 b 三者懇談会の早期実施、回数見直し	a 進路希望調査期限 1ヶ月前倒(7月→6月) b 三者懇談会年4回実施	平成29年度生(平成30年3月卒業)の進路結果は以下のとおりである。 進路先　人数(構成比) [対前年] 大学　73名(34%) [+12%] 短大・専門　81名(37%) [△10%] 進学未定　19名(9%) [+2%] 就職他　43名(20%) [△4%] 合計　216名(100%) 前年に比べ 4 年制大学進学者が12%増加している。今後とも4年制大学進学者数を増やしてゆくことを目的に、進路指導の早期開始を継続して実施してゆく。
	⑵関西圏私立大学への知名度向上	a 有名私立大学の学部・学科説明会	a 参加大学数 50校以上 (4年制36校、以外12校)	説明会参加校は、4年制36校、以外12校以上であった。 指定校推薦枠大学68校、短期大学38校、専門学校125校を確保。
3 生徒指導	⑴基本的生活指導の習得	a 遅刻指導強化期間の設定 b 服装、身嗜み指導の徹底 c 人権教育の徹底	a 遅刻回数の削減に努める 10回/人年以下を目標とする。 b 通学路立ち番指導 100% c 人権教育回数 4回	遅刻回数の学年別推移は以下のとおりである。(回/人年) [ ]が平成29年度実績 1年次　2年次　3年次 3年　20.9　14.1　[12.9] 2年　15.0　[15.0]　－ 1年　[11.5]　－　－ 各学年とも概ね前年度に比較して遅刻回数は減少しているが、目標である10回/人年以下には至っていない。特に2年生において15.0回と前年実績に対して減少しておらず、高校生活2年目の中弛みが顕著となっている。 今後は、新1・2年生への躾教育を徹底し、高校生活を充実したものとするよう配慮する。 人権教育については目標を達成できていると思われるが、教員の目が届かない休憩時間でのいじめ等の防止に努めることとする。

4 生徒会・クラブ活動	(1)クラブ活動の活性化	a 男子生徒が参加できるクラブ数の増加 b クラブ参加率の向上 c 市大会、府大会等での成績向上	a クラブ数 4 部増加 運動部の男子全員参加 b クラブ参加率 40%増 1・2 年生 50%増 3 年生 30%増 c 軽音楽部、吹奏楽部、陸上部の大会成績向上	運動系クラブでは、軟式野球部が創部 2 年目にして近畿大会に初出場することができました。(平成 30 年度) 文化系クラブでは、吹奏楽部が大阪府吹奏楽コンクール中地区大会小編成の部において優秀賞を受賞しました。(平成 30 年度) これらの功績により、他の運動部、文化クラブにおいても生徒達の毎日の練習に対する取組が変わってきています。
5 保護者との一体教育	(1)保護者とのコミュニケーション緊密化によるきめ細かな生徒指導	a 保護者懇談週間開催時期の見直しにより、生徒、保護者との懇談内容充実 b 保護者との情報共有教科	a 保護者懇談週間時期・回数 時期：6・11 月 回数：2 回 b Web でお知らせ開封率 80%以上	保護者懇談会は、年 2 回実施。 Web でお知らせ開封率は 80%をめざしたが 70%台に留まっている。 Webでお知らせは単なる一方通行の連絡に留まらず、双方向での情報交換が出来るように IT システム強化を検討する。
6 安全管理	(1)人命の尊さに対する意識高揚	a 非難訓練実施による危機管理教育の実施 b 救急救命講習の実施による人命救助教育の実施	a 地震非難訓練の実施 年 2 回実施 出席率 90% b AED を使った救急救命教育の実施 出席率 90%	校舎、コンクリート外壁等の地震発生時に落下、倒壊懸念される箇所の補修工事を開始した。全ての工事終了は平成 30 年度予定。 AED を使用した救命訓練を教員で実施(出席率 70%)。引続き 1 回/年以上の実施を検討する。

Ⅳ 総合評価

評価	自己評価	次年度の改善方針
C	4年制大学への進学者が73名、卒業生の34%と前年に比べ12%増加したことは評価できるが、関西有名私立大学に合格できなかったことが残念である。 一方、遅刻回数は徐々に減ってきてはいるが、依然として平均遅刻回数は高い状況である。	平成 26 年度から継続してきた基礎学力の定着を引き続き目指してゆく。 生活指導は、全体への啓蒙活動とは別に、個々の生徒に対するきめ細かな指導を徹底する。

Ⅴ 学校関係者評価

今年度の重点目標	学校関係者評価委員会意見	次年度の改善方策
基礎学力の定着	各生徒の基礎学力に応じた学び直し学習は評価できます。	各生徒の学力に応じたきめ細やかな学習指導をお願いしたい。

進路指導	4 年制大学への進学率が上がってきたことは大きな成果と思います。 1 年生の時からから苦手教科対策、受験教科対策などを更にお願いします。	先輩の成功事例を後輩に伝えてゆく等、新たな校風を築いていくようお願いします。
生徒指導	遅刻強化週間、服装強化週間を設定しメリハリのある生徒指導を行い、遅刻数は激減してきたと思う。	昨年と同様、一部の生徒に遅刻が偏っている感がある。 罰則の強化だけでは生活習慣の改善には結びつかないと思われる。生徒個別のフォローアップをお願いする。
生徒会・クラブ活動	軟式野球部、吹奏楽部は地区大会で優秀な成績を挙げることが出来た。先生の熱心なご指導に感謝します。	スポーツ専攻科の新設が運動系クラブの活躍を生んで行くと思います。活気ある校風の醸成に期待しています。
保護者との一体教育	「Web でお知らせ」は連絡手段としてしか利用されていないと思う。	「Web でお知らせ」を有効活用し、学校・保護者間での双方向コミュニケーションツールとして活用していけば良いと思います。
危機管理	災害対策、避難マニュアルなどは学校、生徒にも充分周知されてきたと思う。	不審者侵入対策、防犯対策について施錠管理に留まらず、地域をあげた危機管理強化活動を推進して頂きたい。
綜合評価	入学者数が減少し学校自体に活気が無くなった頃の状況は終了し、生徒数の増加と共に生徒、教員の振る舞いも明るくなったと思います。 教職員の丁寧な指導に感謝いたします。	カリキュラムの定着化、教員の定着化を図り、安定した環境で学習できる体制を確保して頂きたい。

学校関係者評価委員会構成

評価委員長　　:あべの翔学高等学校PTA会長

評価委員　　:あべの翔学高等学校呉竹同窓会会長

評価委員　　:奈良佐保短期大学キャリア支援センター長